

Ⅳ 計画策定における課題



1 大崎市の現状・問題等の要点

本市の地域・公共交通に関する基礎調査を行った結果から、本市の現状・問題等の要点は以下のように整理されます。

《地域の現状》

○人口減少・高齢化の進展

- ・本市の人口は減少傾向にあり、今後も減少する見通しで、人口の集中する市中心部とそれ以外の地域との差がますます顕著になります。
- ・高齢化の進展により、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増加し、外出でクルマを使わない人が増える可能性があり、公共交通の役割がますます重要になります。
- ・市民の定住意向は極めて高く、暮らしを支える手段の一つとして、移動手段の確保が必要です。

○広大な市域、古川地域に多く立地する主要施設

- ・居住地が広く薄く市域に分布している状況であり、鉄道やバス等ですべてをカバーすることが難しい状況にあります。
- ・店舗や医療施設等は各地域にありますが、病院や大きな店舗等の主要施設は古川地域に集中して立地しており、これらの利用には地域内の移動、市中心部への移動が必要です。

○クルマ中心による悪影響の危惧

- ・市民の生活はクルマ中心であるため、公共交通だけでなく、地球環境面、健康面、市街地のにぎわい等の面での悪影響が生じる危惧もあります。
- ・現状では、高齢者の運転免許保有率も高く、免許返納はあまり進んでいない状況です。
- ・観光スポットが豊富にありますが、観光客数は横ばいの状況です。観光客の交通手段もクルマ中心で、市内を巡るような人は少数派です。

《大崎市のまちづくり》

○本市がめざす姿

- ・本市は、市民が快適に暮らし続けられるまちを目指しており、取り組みの一つとして、公共交通の充実・強化が必要とされています。

《公共交通の現状》

○概成している公共交通ネットワーク

- ・主に鉄道、バス、地域内公共交通等で構成されており、広域移動、市中心部への移動、市中心部内での移動、地域内の移動のためのネットワークが概成しています。
- ・市中心部には、複数の鉄道駅があり、古川駅の駅前広場にバス、タクシー等の結節機能があります。各地域にも主要駅がありますが、機能が充実しているのは古川駅、鳴子温泉駅、鹿島台駅のみです。
- ・利用者の視点から、現地（主要駅・バス停等）での不案内な面、外出手段を考えようとする際の公共

交通全体の分かりやすさが不十分な面があります。

○利用客の低迷・非効率

- ・鉄道、バス、タクシーの利用は、市中心部が多くなっていますが、古川駅を除き、鉄道、バス等の利用客数は低迷している状況です。
- ・市民バスは、利用客数が少ない路線、収支がよくない路線、乗車密度が低い路線があります。中心市街地循環便・シャトルバスの利用客もさほど多くありません。地域内公共交通も利用客数が多くなく、利用する人がほぼ限定されている地域、1便当たりの乗車客が極めて少ない地域があります。
- ・運営の視点から、利用客が少なく厳しい路線があり、加えて、コロナ禍で日々の負担も増えています。また、全国的に乗務員不足が深刻で、運行・運営を続ける面での課題となっています。

《市民・利用客の状況（アンケートより）》

○複数ある市民の外出パターン

- ・各地域内に、日常的に出かける店舗、医療施設等がそれぞれあります。一方、市中心部にあるショッピングセンターや市民病院に、時々出かけるという市民が多く、通勤・通学や特別な買い物・遊び等で、仙台市等の市外へ出かける市民もいるなど、いくつかの外出パターンがあります。

○クルマ中心の市民の外出スタイル

- ・外出手段は、クルマ（運転、送迎・同乗）が極めて多く、公共交通を使う人は少ない状況で、外出時に歩く人も少ない傾向があります。
- ・バス等の利便性について、乗らないので分からないという人が特に多く、交通手段として定着していない状況です。

○市民・利用客の改善希望・意識

- ・公共交通で不満な人が多い項目として、待ち合い環境、最寄り駅・市中心部の駅のアクセス、運行方法・仕組み、全体の分かりやすさ等が挙げられています。
- ・現在は公共交通を利用しなくても、将来に運転できなくなることへの不安が多く、地域の公共交通を維持・活性化することが必要との意見も多くなっています。

《観光客の状況（アンケートより）》

○クルマ中心で回遊等の少ない観光客等

- ・観光客はリピーターが多く、クルマでの来訪が大半で、目的地に直接行って帰り、滞在時間が比較的短い人が多い状況です。また、鉄道、バスのことを事前に調べ、知っている人は少ない状況です。
- ・市内の公共交通が分かりにくいと感じる人も少なくなく、改善点として、便数の他、観光地へのアクセス手段、周る手段、バスの案内の充実等が挙げられています。

《地域内公共交通等の利用客の状況（アンケートより）》

○高齢者の利用が中心の地域内公共交通等

- ・高齢者（特に免許のない人）の買い物・通院での利用が多く、登録して利用しない人は、クルマが使えるため必要がないとの理由が大半です。
- ・利用客からは、帰りの便が合わず利用できないこと、複数の場所を回るのに都合がよくない、通院の際に相乗りがしにくい、予約の仕組みを改善してほしい等の要望が挙げられています。

2 取り組むべき課題・着眼点

Ⅱ及びⅢ章で把握した地域・公共交通の現状や市民の外出等の実態・意識の調査等を通じて、見出される大崎市の公共交通の今後に向けた課題あるいは着眼点等として以下が挙げられます。

○大崎が目指す姿やまちづくりを、将来にわたり支えていく公共交通が必要

(市内各地域の日々の暮らしを支える交通サービス、各地域の拠点を活かした集約型の都市づくりと連携する交通サービスの確保・持続)

- 今後、人口減少・高齢化が進むことを念頭に置き、各地域に見合った公共交通を考えていくことが必要です。また、地域間の連携を支えていくことが必要です。
- 本市においては、すでに、広域移動、地域間移動、地域内移動、市街地循環を構成する公共交通ネットワークが構築しており、将来まで確保・持続するための部分的な見直し等が必要です。(市民バスや地域内公共交通等で非効率な路線の運行方法を調整する等)
- 市内各地域に、公共交通不便地区が一部残存しています。クルマを運転しない高齢者が増えることを前提に、今後とも、日々の暮らしを支える外出手段を検討することが必要です。

○拠点の機能や案内を充実することが必要

(市の中心拠点、各地域内の拠点、主要施設のアクセシ性・利便性等の向上)

- 市中心部と各地域をつなぐネットワーク構成であり、公共交通の利用は市中心部付近が特に多くなっているため、市中心部の拠点(駅)の乗り継ぎや待ち合い環境を確保することが必要です。
- 現状では、主要な駅など乗り継ぎ拠点等において、利用者への案内等が十分とはいえない状況であり、外出した現地での案内等の分かりやすさの向上を望む声も多いため、これらに対する改善が必要です。

○全体の分かりやすさ・使いやすさの向上と、市民等の利用促進が必要

(公共交通への抵抗感の軽減、市民等の意識の醸成・行動スタイルの変容)

- アンケートの回答等で市内の公共交通が全体的に分かりにくいとの声があり、利用しようとする人が不便を感じるという意見があることから、例えば外出前に交通手段を選ぼうとする人にとって、より分かりやすく使いやすい公共交通を目指し、利用者目線での改善や工夫が必要です。
- 一方、市民や来訪客の、市民バスや地域内公共交通の認知度が低く、公共交通を利用できる状況にあっても、クルマを利用する人が大半であるため、ライフスタイルの見直しや公共交通に対する意識の醸成等が必要です。

○まちなぎわい等に貢献することが必要

(集客・回遊を促す交通サービス)

- 本市への公共交通で来訪、市民の公共交通による外出、市内での“公共交通十歩く”による回遊を促すことにより、まちなかの活性化や、観光の振興など、本市のにぎわい創出等のまちづくりと連携していくことが必要です。